月　日 名前

／100点

【小3】国語 文章問題　物語文 5

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

日曜日の午後、お母さんが用事で出かけることになった。

「一時間で帰るからね。だれか来ても、ドアを開けちゃだめよ。」

わたしが一人でるすばんをするのは、はじめてだった。「だいじょうぶ。」と言ったけれど、ドアがしまる音を聞いたとたん、家の中がきゅうに広くなったような気がした。

テレビをつけてみたけれど、あまり楽しくない。時計のはりの音が、いつもより大きく聞こえる。そのとき、れいぞうこが「ぶうん」と鳴った。わたしは、びくっとした。いつも聞いている音なのに、一人だと、知らない音のように思えた。

わたしは、何かすることを考えた。そうだ、お母さんが帰ってきたときに、びっくりさせよう。わたしは、ほしてあったタオルをとりこんで、一まいずつていねいにたたんだ。お母さんがするように、はしとはしをそろえて、半分に、また半分に。

たたみおわるころには、時計の音は気にならなくなっていた。

ドアの開く音がした。

「ただいま。」

お母さんは、たたんだタオルを見て、目をまるくした。

「これ、一人でやったの。」

わたしは、むねをはってうなずいた。ほんとうは、少しこわかったことは、ないしょにしておいた。

（この問題のための書き下ろし）

問一　ドアがしまる音を聞いたとたん、わたしはどんな気がしましたか。「～ような気がした」につづくように、本文から十五字までで書きぬきましょう。

問二　「いつも聞いている音なのに、一人だと、知らない音のように思えた」とありますが、このときのわたしの気持ちとして、いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　一人でいることが心ぼそく、少しこわい気持ち。

イ　れいぞうこがこわれたのではないかと、心ぱいする気持ち。

ウ　テレビがつまらなくて、たいくつな気持ち。

問三　わたしは、お母さんが帰ってきたときのために、何をしましたか。本文から三十字までで書きぬきましょう。

問四　「ほんとうは、少しこわかったことは、ないしょにしておいた」のは、なぜだと考えられますか。三十五字までで書きましょう。